

琥珀こはくの砂

この春、浜辺でコハクを拾いました。

コハクは、大昔の樹脂(松ヤニなど)の化石です。黄色やオレンジ色に近い褐色で、透明や半透明。きれいなものは磨かれて宝石になりますし、ときどき昆虫が中に入ったコハクもあります。春の石狩浜で拾ったものは赤っぽいものが多く、一番大きいものは2cmくらいの大きさです。

樹脂の化石といつても、コハクは普通の化石と違



石狩浜で拾ったコハク。  
赤みの強い琥珀色です。

い、石(岩石や鉱物)ではありません。樹木からしみ出した樹脂は、次第に油やアルコールのような蒸発しやすい成分を失っていきまます。さらに土に埋もれ、地層に埋没し、何百万年もの長い年月がたつと、最終的にもうこれ以上は変化しない、安定した物質になります。それがコハクです。

海岸に漂着するコハク。世界では、ポーランドやリトアニアなどは、バルト海沿岸のものが有名です。バルトのコハクは、海が荒れた時に海底の地層から巻き上げられ、浜に打ち上がるそうです。それでは、石狩浜に漂着するコハクは、いったいどこから来るのでしょうか。そのヒントは「石炭」です。

石狩浜や厚田区の無煙浜には、たくさん真つ黒な石炭が漂着します。これらは石狩川やその支流の夕張川、空知川などの流域にある炭田地帯から流されてくるものと考えられています。石炭は樹木の化石、コハクは樹脂の化石。どちらも同じ、大昔の木。つまり、石炭があるところにはコハ

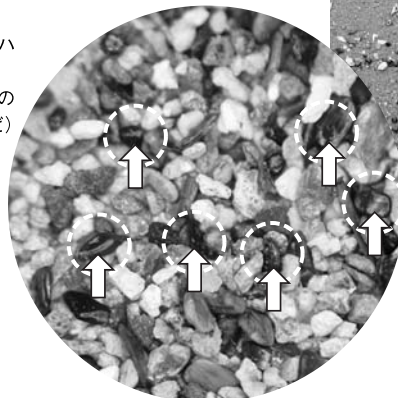


クがある可能性が高いのです。実際、浜辺の漂着石炭をよく見ると、ときどきコハクが黄色い筋になって入っていることもあります。石狩浜のコハクは、おそらく石炭と同じように石狩川の上流から流されてきたものなのでしょう。

石狩浜でコハクが採れる——。でも、コハクなんて見つからないよ、という人がほとんどだと思います。いえいえ、そんなことはありませんよ。砂をちよつと手にすくつて、よく見てください。砂浜全体は灰色でも、砂の一粒一粒はいろいろな色をしていることが分かるでしょう。白、黒、透明、茶色……。少し透き通った、茶色い粒がありますか? そう、それがコハクです。実は石狩浜の砂には、コハクの砂——宝石の砂が、たくさん入っているのです。

(志賀健司)

石狩浜の砂を顕微鏡で見ると、細かいコハクがたくさん入っていることが分かります。今、資料館では、コハクの入った石狩浜の砂のほか、珍しい砂(星砂、緑色の砂など)を顕微鏡で見ることができます。



粒状に黒く見えるのは、浜辺に漂着した大量の石炭です(厚田区無煙浜)。石狩川の上流から流れてくるようです。

- 文化財課・いしかり砂丘の風資料館 ☎62-3711
- ✉ [bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp)
- 石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107
- ✉ [ihama@city.ishikari.hokkaido.jp](mailto:ihama@city.ishikari.hokkaido.jp)

👁️ 口コミで知らせよう  
石狩の  
たか 観光 ③



浜益のシンボル・黄金山。その威容から“浜益富士”とも呼ばれています。

こがね やま  
黄金山  
の魅力

今回のナビゲーター



黄金山から眼下に広がるユーカラの里を満喫してみませんか？

こがね山岳会事務局長  
わたなべ ちあき  
渡邊 千秋さん  
1951年、浜益区幌出身。  
1980年から浜益の山を中心  
に山歩きを始める。広報  
「はます」で「浜益10名山」  
を紹介。

■問合せ先  
こがね山岳会事務局  
☎79-2213 (渡邊さん)



日帰りでも手軽に登れる山として、家族連れや中高年の間で人気の高い山となっています。



石狩から浜益に向かって国道231号を進み、柏木から国道451号に入って滝川方面に7km、実田橋を越えすぐ左側の登山道入口の看板から4km先に登山口があります。

「黄金山に登って来たよ」と家に帰って母親に言ったら、ひどく怒られたという話を聞きました。1942(昭和17)年の話で、その方は山好きの同僚に誘われ兼平沢から黄金山に登り藪をかき分け登ったということですが、どこをどう登ったかは覚えていないようです。

その時は神聖なる山として、千ばつの年に黄金山に登り雨ごいの祈りをし、祠を建ててご神体である白蛇に卵をお供えして祈願したといわれています。また、古来たちによると黄金山には沼があったとのことですが今ではどこにあるのかは分かりません。

黄金山はアイヌの叙事詩ユーカラ、ポウヤウンペの英雄伝や義経伝などにうたわれ、ピンネ・タヨ

ルシペ(木原のそびえる雄山)、摺鉢山と夫婦山でもあります。春になるとフクジュソウが一面に咲きほころび黄金色に輝いて見えたところから、黄金山と呼ばれるようになったとか。あるいは金を採取したことにも由来しているようです。70年ごろ林道の改修工事が行われたのですが、その時には金鉞の坑口がいくつも残っていたそうです。

私が黄金山に登ったのは80年かからですが、初めのころは黄金山に登って人に会うことなど皆無でした。登山道は今より狭く、今、思うと少し暗い感じのする道でした。

90年にそれまで利用していた北側ルート(旧道)の一部に危険箇所があることから、新道開削をしています。その年8月、国定公園に昇

格、それを機に完全に登山ができるようになり、岩見沢営林署の協力ですれまで施錠していた林道は開放林道となっていていつでも登山が楽しめるようになりました。その間、林道の橋の改修をし、登山道の整備、距離表、樹木名板など2001年には石狩支庁によるトイレ設置など登山口の整備も行われ、登山者に利用しやすい環境が整いつつあります。

浜益区のシンボル黄金山は標高739・5m登山口から1時間半ほどで山頂に到達します。山頂からは群別岳・尾白利加岳(奥徳富岳)・南暑寒岳・ピンネシリ山などの山並みと、積丹半島・日本海・愛冠岬・柏木・実田・御料地の田園風景などが一望できます。

この山が、石狩市民の憩いの場として、また家族で登山を楽しむ手ごろな山としてたくさんの人に利用されるよう期待しています。まだまだ整備が必要ですが、これからも市民の皆さんと一緒に素晴らしい自然を慈しみ見守っていただくと願っています。